

編集後記

□ 広報部の委員になって早2年、カメラの撮影、パソコンの使い方等いろいろ勉強させていただいています。これからも、編集、構成等頑張っていきます。今現在、小冊子の編集、構成を行っていますが、膨大な量の写真を確認しつつ、ICDの歴史、諸先生方の楽しそうな写真を見ていると、ICDの人の繋がり goodness を痛感させられます。これからもよろしくお祈りします。(足立 徹)

□ 今年の歯科医師国家試験では合格率が63.3%と過去最低の結果でした。この現実をどう捉えるかで今後の未来の歯科医師は、大きく変わると思います。少なくとも学生である歯科医師の卵達を夢や希望に向かって羽ばたくようにするかは、まずは現役の私達が夢を持って仕事しているかどうかではないでしょうか？ そんな中でICDの先生方は、常に夢や希望を持って楽しく仕事をされているので、いつお会いしても私自身たくさん勇気やパワーを貰っています。私自身も、こんな素晴らしい先生方と共に活動できる事を感謝し、ICDフェローとして少しでも貢献できるよう頑張っていこうと思います。感謝を込めて…。(白壁 浩之)

□ 広報・編集委員として2期が過ぎました。その間、多くの先生方にご指導いただきICDの歴史や事業内容を知ることができたのは非常に意義深いことでした。またホームページの担当をさせて頂き、フェローの皆様には原稿依頼等大変お世話になり有難うございました。

今号も前号に引き続き特別企画20年後に向けての歯科医療を掲載しています。予測困難な時代の中、過去から学び、未来に目を向けてしっかりと前進していきたいと思えます。(田中 康雅)

□ 今年も無事に「第45巻第1号」を発刊することが出来ました。皆様のご協力に感謝します。

中国との尖閣問題、海外では韓国での沈没事故、ウクライナ危機、天候ではエルニーニョ現象等、新聞テレビは日々数々の報道で賑わっています。

また子供たちにとっても…道草して草花を見つけ、虫取りしながら家路につくなどのんびり育った私の子供の頃とは違い、いろんな事件から身を守るため集団登下校を強いられたり、ネットの危険にさらされたり、現代の子供たちを取り巻く環境はとてつもないように思います。

歯科医として、社会の一員として何が出来るのか…まず「歯科界から笑顔!!」目指して頑張りたいと思います。

(井上 淳子)

□ 昨年12月ユネスコの委員会は日本政府が提案していた「和食・日本人の伝統的な食文化」の無形文化遺産への登録を決定しました。和食の特徴として、多様な新鮮な食材、栄養バランスに優れて健康的な食生活、自然の美しさや季節の移ろいの表現、年中行事とのかかわり、を挙げそのルーツは縄文時代の食生活にさかのぼると言われています。ご飯に一汁三菜の基本は、切歯・犬歯・臼歯の歯牙の構成に照らしても先人が言うように「歯のごとく食べるがよい」と言われる所以なのでしょう。最後にその書は、こどもたちへの食育も和食を基本にしたい。出汁の旨みを教えれば、子どもたちは和食を好むようになる。そして食事を共にすることで、家庭の絆は深まり、「いただきます」「ごちそうさま」も和食の精神から生まれたものだということも子供たちに伝えたい、と結んでいました。

(鏡 宣昭)

□ 広報・編集委員会は各委員会、各委員の協力により2年間の常任理事の役職を無事に終業することができました。

The Journal of I.C.D.は学会誌であり日本部会ばかりではなく広く歯科社会に歯科文化を広報する委員会です。文化・カルチャーの語源はカルチベート、「耕す」という動詞から派生したものです。J.I.C.D.やホームページを通じて歯科文化をどこまで耕せたかという任を果たせたかの結果を、各委員の心の中での自問自答をしております。

(鈴木 設矢)